

平成 2 9 年度事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

当連盟は、平成25年4月1日付にて「非営利型の一般社団法人」への移行認可を得て新法人として発足、定款第5条に規定される諸事業を実施した結果、3年間で「公益目的支出計画の実施を完了して、平成28年12月12日付にて「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を内閣府より受領しました。

本年度からは、内閣府への公益目的支出計画書の提出や実施報告書の提出義務はなくなりましたが、当連盟の事業の継続として、定款第5条に規定される各事業を前年度と同様に計画して実施しました。

(事業活動)

事業1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業

(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

1. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2017 (若洲大会)

8月4日(金)～6日(日)、昨年度と同じ東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共同主催にて、東京都ヨット連盟の協力を得て開催しました。

本年も独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受け、東京都からの補助金(公益財団法人東京都スポーツ文化事業団)と各企業からのプログラム広告料の支援を頂きました。

アサヒ飲料株式会社、エスビー食品株式会社の協賛を頂き、競技会期間中の飲物、最終日のカレーライスを提供出来ました。

海外からニュージーランド、オーストラリア、香港、韓国、タイ王国、ロシアの6カ国(選手19名、指導者・保護者22名を招聘しました。

OP級初級者17艇、OP級上級者57艇(内、外国13艇)、レーザー4.7 13艇(内、外国6艇)、国際420級7艇(16名)、FJ級3艇(7名)の参加選手110名、指導者・保護者122名、運営役員80名の総勢312名の規模となりました。

一昨年の競技会から、シーマンシップに溢れた選手、指導者、クラブを表彰する「小澤吉太郎特別賞」を設けましたが、本年度は「みやこジュニアセーリングクラブ」に授与されました。

国内クラブ対抗レースの上位3クラブには海外セーリング研修派遣資格各1名授与(渡航費援助)のJJYU会長特別賞を設け、江東区立小中学校セーリング部、葉山町セーリング協会、夢の島ヨットクラブに授与されました。

2. 第6回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ (ミキハウス杯 大阪2017)

10月15日(土)～16日(日)、昨年と同じ会場の大阪北港マリーナで、三起商行株式会社(ミキハウス)の特別協賛を頂いて開催予定で、3クラブ22名の選手の申込みがありましたが、諸般の事情により開催中止となりました。

3. 第27回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウス杯 東京2017)

9月10日(日)、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、三起商行株式会社

(ミキハウス)の特別協賛と大塚製薬株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共催で開催しました。

参加艇数は、OP級初級者16艇、OP級上級者47艇、レーザー4.7が7艇の合計70艇でした。クラブの指導者・保護者42名に運営役員その他65名に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者4家族8名の体験試乗へ参加があり、総勢185名程となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

今年の特徴は、11月に全日本OP級選手権大会がこの若洲ヨットハーバーで開催されるのでその前哨戦として選手権出場を目指すジュニアセーラーが多く参加したことで、白熱したレースが展開されました。

海外セーリング研修派遣資格授与のクラブ対抗レースは江東区立小中学校セーリング部が優勝し、会長特別賞が授与されました

4. 第5回ジュニアヨットクラブジャンボリー

ゴールデンウィークの5月3日(水・祝)～5日(金・祝)に開催する計画でしたが、従来から利用していた会場の静岡県浜松市の「三ヶ日青年の家」が他団体の予約がすでに先行しており使用できないことが判明いたしました。他の会場及び時期の変更も含めて検討しましたが、運営面、費用のことを考えて、本年度の開催は難しいとの結論にいたり中止を決定し、各クラブに連絡をしました。

事業2. 諸外国との交流・親善に関する事業

(定款第5条 第1項 第4号)

1. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っています。今年は当初5カ国招聘予定でしたが、香港からは是非招聘して欲しいとの要請があり、予算的には厳しいところでしたが6カ国にしました。19名の外国チーム選手と監督・コーチ・保護者22名の合計41名の参加となりました。今年からホテルでの夕食提供は中止して各国自費で自由にすることにしましたが、結果的にホテル側も外国チーム側も良かったという評価でした。

各国チームとも、大会運営、もてなしは素晴らしかったとの感想を頂き、来年の別府大会にも是非参加したいとの言葉で帰国しました。

2. 海外セーリング研修派遣事業

(1) 8月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2017」の国内クラブ対抗レースの上位3クラブに、渡航費の一部を援助して海外セーリング研修の派遣に参加する資格を授与する会長特別賞を本年度も設けました。

特別賞を授与されたクラブは第1位 江東区立小中学校セーリング部、第2位 葉山町セーリング協会、第3位 夢の島ヨットクラブでした。

又、9月開催の「ミキハウスカップ東京2017」と10月開催の「ミキハウスカップ大阪2017」の優勝クラブにも海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞を設けましたが、「ミキハウスカップ大阪2017」は中止となった為、「ミキハウスカップ東京2017」の優勝クラブの1クラブだけとなり、この優勝クラブは江東区立小中学校セーリング部となって、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2017の優勝クラブと同じであったことも勘案し、国際委員会で検討の結果、両大会の特別賞受賞クラブを合同で海外セーリング研修に派遣することになりました。

研修地はニュージーランドのオークランドにすることとなり、平成30年2月6日(火)～13日(火)、小野澤理事、青山理事が引率して、選手の往復渡航費用を

連盟で負担支援しました。

各クラブからの希望もあり、費用自己負担で各クラブ1名の追加参加を認めましたので、合計8名となりました。

- (2) 毎年国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会に招聘しているオーストラリアのロイヤルパースヨットクラブから、平成30年2月3日(土)～4日(日)西豪州パースで同クラブが主催する「Royal Perth Yacht Club Dinghy Mini Series 2018」への招待状が来たので、友好関係継続のためにも参加するべく、自費参加での参加希望選手を募集したところ、B&G高松海洋クラブ3名、葉山町セーリング協会1名、YMF Sジュニアヨットスクール葉山2名の6名の日本チームが結成されて、各クラブの保護者、指導者も4名参加して頂く事になりました。当連盟もチーム結成の責任上から、ニュージーランドでの海外セーリング研修の前に小野澤理事が引率、同行して行くこととしました。

事業3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(定款第5条 第1項 第1号、第2号

及び第5号)

1. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業

平成29年6月10日(土)開催の平成29年度定時総会終了後の午後に指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

又、平成29年8月4日(金)～6日(日)東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所で開催の日本ジュニアヨットクラブ競技会2017の開会式後に、選手、指導者、運営役員を集めて、丸山晴久理事(医事委員長)による熱中症対策その他の安全講習会を開催しました。

平成30年1月20日(土)開催の平成30年2月度理事会(平成29年度第6回理事会)の終了後の午後に、指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

(2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度に従って、各クラブから新規公認申請の募集を行うと共に、4年毎の更新認定の募集を毎年行っています。

指導育成委員会を中心に、公認指導員制度の維持と活性化を図る目的で制度の運用を再構築することを検討し、平成29年2月18日の平成28年度第5回理事会で「ジュニアヨットクラブの公認指導員認定に関する細則」の改訂案を承認決定し、同日付けにて発効することとなり、各クラブへ案内をしました。

改訂された細則に従い、平成29年の日本ジュニアヨットクラブ競技会2017の期間に東京海員クラブで指導者研修会を開催し、競技会参加の指導者、保護者に呼び掛け、受講した4名の方を新たに公認指導員に認定しました。

平成28年度(平成29年3月末)で有効期限が終了している公認指導員については、連盟事務局の不手際もあって更新の必要性の案内が不十分であったことから特例として平成29年度中に指導者研修会に参加し更新申請をされた場合は更新を認めることとして案内をしました。更新希望者はありませんでした。

- (3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業
本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

事業4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業

(定款第5条 第1項 第6号)

広報誌「ユースセーリング」発行事業

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ています。

広報誌「ユースセーリング」の発行事業も本年度は平成29年10月に、第86号を発行することが出来ました。今後は毎年10月発行を目標に努力して行きます。

その他の通常活動として、希望する事前登録メンバー（正会員、特別会員、登録クラブの指導者、保護者、ジュニアセーラーその他セーリング界関係者）に「JJYU通信」をE-mailやファクスで発信していますが、本年度は「通信 15、16」を発信しました。

(会員、クラブの状況その他)

- (1) クラブの代表者である正会員は平成30年3月31日現在28名、学識経験者である正会員は20名で正会員の合計は48名です。
- (2) 登録クラブ数は平成30年3月31日現在28です
- (3) 特別会員は、昨年度と同じアサヒホールディングス株式会社、株式会社ライフサイエンス研究所、株式会社三洋物産、株式会社三洋販売の4企業です。
(平成30年3月31日現在)

(4) 連盟会長表彰

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、平成28年度から発足しました。

平成29年度の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、平成29年5月17日開催の平成29年度第2回度理事会に諮り、下記3名が決定しました。

表彰式（表彰状、記念品の授与）は、平成29年6月10日（土）開催の平成29年度定時総会終了後に定時総会と同じ東京都港区三田の「東京さぬき倶楽部」に於いて行いました。

記

- ① 菅澤省吾氏（84歳 加茂ヨットスポーツ少年団元代表者）
② 大平邦夫氏（64歳 いわきジュニアヨットクラブ代表者）
③ 関慶氏（68歳 千葉ヨットビルダーズクラブジュニア代表者）

尚、公益財団法人日本セーリング連盟の平成29年度定期表彰については、当連盟より推薦した大西俊彦氏（隠岐ジュニアヨットクラブ元代表者、島根県ヨット連盟会長）が功労賞を、山下弘雄氏（当連盟理事、藤沢市青少年セーリングクラブ元代表者）が優秀指導者賞を授与され、平成29年1月20日（土）、岸記念体育館において表彰式が行われました。

以上